

# 第2学年 国語科学習指導略案

1組 計23人(男子12人, 女子11人)

指導者 永田 洋一

- 1 単元 話し合い名人になろう。  
(教材「みんなできめよう」光村2年下)

## 2 単元の見どころ

- 言葉には、考えたことを伝える働きがあることに気付くことができる。【知識及び技能(1)ア】
- 互いの話を注意して聞き合い、話題に沿って話し合うことができる。【A 話すこと・聞くこと(1)オ】
- 考えたことを伝え合うことができる言葉のよさを感じるとともに、話題に沿って話し合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

## 3 単元で目指す子供の姿

主体性	互いの話を関心をもって聞き合い、進んで考えを伝え合いながら話題に沿って話し合うことよさや課題を見いだし、身に付けた「話すこと・聞くこと」の資質・能力を「山下まつり」や実生活に生かそうとする。
協働性	互いの意見を尊重して聞き合い、友達の意見に対して質問をしたり、共感したりしながら自分の考えを広げたり深めたりし、よりよく話し合おうとする。
創造性	実生活で既に身に付けている「話すこと・聞くこと」の資質・能力と、新たに学んだ話し合いの仕方や言葉の働きを関連付けたりしながら、「山下まつり」で1年生と行う遊びを決めたり、「学級のめあて」や「学級レクリエーションの内容」を決めたりする場面などでも活用しようとする。

## 4 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、第2学年「あったらいいな、こんなもの」の学習で、「あったらいいな」というものについて、話す順序を考えながら自分の考えが相手に分かるように話したり、分からないことを尋ねたりする学習に取り組んできた。

そこで、本単元においては、「A 話すこと・聞くこと イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動」の「話し合い名人」になる言語活動を位置付ける。話の内容を理解した上で話題に沿って話し合うことや、相手の発言を聞いて質問したり、共感したりすることで、自分と友達の話に関連付けながら話し合うことができるようにする。

ここでの学習は、互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案者などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う教材「進行を考えながら話し合おう」(光村3年)の学習につながっていく。また、1年生のために考えた数種の遊びの中から、どの遊びを行えば1年生が喜んでくれるかを話し合う生活科「せいこうさせよう『山下まつり』」の学習にも適用することができる。

## 5 指導計画(全8時間)

過程	時	学習課題	課題解決に迫る学習内容
つかむ・見通す	1	どのように学習をすすめていこうかな。	学習の進め方について考え、学習計画を立てる。
調べる	1	どのように話し合えばいいのかな。	話し合いをしている様子を視聴し、話し合いの仕方を捉える。
	1	どんなじゅんぴがひつようかな。	話題を選び、自分の考えをもつ。
深める	2	話だいにそって話し合おう。	話し合いの仕方を押さえ、話題に沿って話し合う。
	2	どんなことに気を付ければいいのか(本時)	話し合いの仕方についてよいところや気を付けるところを教え合う。
振り返る・生かす	1	話し合い名人になれたかな。	話し合いの仕方について振り返り、今後の学習を見通す。
新たな学び		生活科「『山下まつり』をせいこうさせよう」 1年生が喜ぶおもちゃやさんをしよう。	「山下まつり」に向けて学習課題や学習計画を立てる。

## 6 本時

### (1) 目標(7/8)

互いの話し合いのよいところや気を付けるところに気付き、話し合いの仕方について教え合うことができる。

### (2) 指導に当たって

#### ア 主体的な学びを実現する教師の手立て

「つかむ・見通す」過程で、話し合いにおける役割や話し合いの態度、意見や質問、共感の示し方など、本時まで学んできたことが記入してある「話し合い名人カード」を基に、これまでの話し合いの成果と課題を振り返るとともに、本時の話し合いで、どのような話し合いの目標を達成したいかを記入させることで、課題解決への見通しをもたせる。

#### イ 対話的な学びを実現する教師の手立て

「調べる」過程で、「話し合いグループ」と「話し合いの観察グループ」に分かれて話し合いを行うことで、「話し合いグループ」が、「話題に沿って話し合うことができたか。」「質問したり共感を示す言葉を使ったりして話し合うことができていたか。」などの観点に従って、「話し合いの観察グループ」による助言ができるようにする。

#### ウ 深い学びを実現する教師の手立て

「深める」過程で、「本時まで学んだ話し合いの仕方は、どのようなことに使えますか。」と問うことで、生活科「山下まつり」での活動や、学校生活の中でみんなで話し合っただけで何かを決める場面など、様々な場面に生かそうだという見通しをもてるようにする。

(3) 展 開 □教師の言葉掛け [ ]子供の反応 [◆] 重点評価項目 ☆ICT 活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
つかむ・見通す (5)	<p>1 前時の動画を見て、課題と学習の見通しを明確にする。</p> <p>友達に、話合いで気付いたところを、たくさん教えることができましたね。</p> <p>でも、自分はどうなっているんだろう。今度は、自分の話合いのよいところや気を付けるところを教えてほしいな。</p> <p>2 本時の学習課題を立てる。</p> <p>話合いのよいところや、気を付けたらもっとよくなることを教えたり教えてもらったりしよう。</p>	<p>○ 「観察グループ」の子供が、友達に話合いの仕方について助言している様子をテロップ入りの動画で示すことで「○○さんは、意見を言っている人に体を向け、頷きながら聞いているところがいいと思ったよ。」「○○さんは、△△さんの話を最後まで聞いた後に、意見を言った方がいいよ。」など、友達の話合いについて、称賛したり助言したりした前時の学習を想起させる。【主】</p> <p>○ 話合いにおける役割や話合いの態度、意見や質問、共感の示し方など、本時までに学んできたことが記入してある「話合い名人カード」を基に、これまでの話合いの成果と課題を振り返るとともに、本時の話合いで、どのような話合いの目標を達成したいかを記入させることで、課題解決への見通しをもたせる。【主】</p>
調べる (10)	<p>3 解決の見通しを全体で確認する。</p> <p>4 A「話合いグループ」とB「観察グループ」に分かれ、「山下まつりでどんな遊びをするか」という話題に沿って話合いを行う。</p> <p>司会役：A1さんから順番に考えを教えてください。</p> <p>A1：ぼくは「パッチンガエル」がいいと思います。なぜなら…(中略)…からです。</p> <p>A2：質問があるんですが、いいですか。</p> <p>A3：A1さんの意見がすごくいいです。</p>	<p>○ 「話合いグループ」と「観察グループ」に分けて話合わせることで、「話合いグループ」が、「話題に沿って」、「質問したり共感を示す言葉を使ったりして」話し合うことができているかどうか助言し合うことができるようにする。【対】</p> <p>☆ 話合いの様態を撮影した動画を視聴しながら、「順番に話せていたのはなぜかな。」「A3さんは、A1さんの意見をどうしていいと思ったのかな。」などと問うことで、司会の在り方や話合いの態度、意見や質問等の言葉の大切さに気付くようにする。【深】</p>
深める (25)	<p>5 B「観察グループ」がA「話合いグループ」に助言する。</p> <p>B1：ぼくは、司会が順番に話を聞いているのがいいと思いました。</p> <p>B2：私は、A2さんがすぐに質問しているのがいいと思いました。</p> <p>B3：A3さんは、共感を示しているのがいいけど、理由も話すともっといいと思うよ。</p>	<p>◆ 話し合う上で大切なことや気を付けるべきことを、「話合い名人カード」を基に助言している。【思考・判断・表現：「話合い名人カード」,「学び合い」】</p>
振り返る・生かす (5)	<p>6 本時の学習でできたことを振り返り、自分の言葉でまとめることで、成果と課題を自覚する。</p> <p>話合いをするときに大切なのは、話題に沿って話を進めることや、質問したり共感したりすることだということが分かった。</p> <p>話合いの仕方を、どんなことに使ってみたいですか。</p> <p>「山下まつり」でどんなおもちゃを売るのがかについても自分たちで話し合ってみよう。</p>	<p>○ 「話合い名人カード」の(◎, ○, △)の中から丸印(肯定的な自己評価)を記入している子供のカードを意図的に紹介し、「話合いが進んだのはどうしてかな。」「意見を出すのが楽しかったのはどうしてかな。」と問い掛けることで、話合いに大切なことは、きちんと友達の方を向くこと、話合いを最後まで聞くことなどに加えて話を進め、質問したり共感したりすることも大事だということに気付くことができるようにする。【深】</p> <p>○ 「深める」過程で、「本時までに学んだ話合いの仕方は、どのようなことに使えますか。」と問うことで、生活科「山下まつり」での活動や、学校生活の中でみんなで話し合って何かを決める場面など、様々な場面に生かせようという見通しをもてるようにする。【深】</p>

第2学年「話し合い名人になろう」本時（7/8）における授業構想シート

本時で期待される子供の姿

主体性	互いの話に関心をもって聞き合い、進んで考えを伝え合いながら話題に沿って話し合うことのよさや課題を見だし、身に付けた資質・能力を「山下まつり」に生かそうとする。
協働性	話し合いに関する助言をしたり聞いたりすることで、自分の考えを広げたり深めたりしようとする。
創造性	実生活や既に身に付けている「話すこと・聞くこと」の資質・能力と、新たに学んだ話し合いの仕方や言葉の働きを関連付けたりしながら、「山下まつり」で1年生と行う遊びを決めようとする。

本時で育成を目指す資質・能力

互いの話し合いのよいところや気を付けるところに気付き、話し合いの仕方について教え合うことができる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

本時で働かせたい「言葉による見方・考え方」

見方（～に着目して）

考え方（思考の枠組み・方法）

友達の話の内容と意見や質問等のつながりに着目して、話し合いの仕方について評価したり関係付けたりしながら考える。

「言葉による見方・考え方」を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く

「言葉による見方・考え方」

順序よく話し合いが進んでいましたね。どうしてかな。



友達の話の内容を捉え、意見を促したり、進んで意見を話したりすることの有効性について評価する。



司会者が、「A1さんから順番に考えを教えてください。」と言っていたので、話し合いが進んだと思います。話し合いを進める司会の役割は大切だと思います。

A1さんは、「ぼくはパッチンガエルがいいと思います。」と進んで意見を言っていたね。パッチンガエルのよさが伝わったかな。



進んで意見を述べた友達に共感を示しながらも、意見と理由を関係付けて考える。



A1さんは、進んで意見を言っていていいなと思ったけど、「パッチンガエル」がいいと思う理由を話すことができなければ、もっとよかったよね。

A2さんが言ったことの後に、パッチンガエルだけではなく、かざぐるまも作ることになりましたね。どうして、1つのおもちゃだけにしなかったのかな。



友達と友達の意見のつながりに着目し、共感を示していることや、2人の話をまとめるよさを推論する。



A2さんが、「A1さんとA3さんの意見はともいいと思います。だから、両方の意見を併せて……。」と言っていましたよね。2人の意見に「いいね」と言った後に、2人の意見をつなげようとしていたのがよかったんじゃないかな。

振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- ・ 友達の意見に、質問や共感を示したりすることが大切だということが分かった。
- ・ 司会者として話し合いを進め、順序よく友達の話聞くことができた。
- ・ 意見を言った後に、理由も話した方がいいと教えてあげることができた。
- ・ 前の授業では、友達に教えるだけだったけど、友達から教えてもらおうと自分が理由も話せていることに気付くことができた。
- ・ 「山下まつり」でのおもちゃやさんで何を売るか話し合うときも、今日の話し合いの仕方を思い出し、活用したい。